

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 西成区
学校名 大阪市立長橋小学校
学校長名 宮辺 渉

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長橋小学校では、第6学年 28名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の平均正答率は、国語・算数それぞれ全国平均・大阪市平均より下回る結果となった。しかし経年で平均正答率を比較すると、全国平均・大阪市平均との差は年々縮まってきており、学習内容への理解が深まっているといえる。無回答率については、全国平均・大阪市平均より低く、難しいと感じる問題に対しても自分の考えを書いており、学習に取り組む意欲は高いといえる。

国語では、特に物語文の問題登場や人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかを見る『読む』の問題に課題があった。算数では、特に表から必要なデータを取り出し整理したり、分析したりする『データの活用』の問題に課題があった。一方、学習面での課題はあったが、児童質問紙における国語・算数の勉強は好きですかの質問に対する回答は全国平均・大阪市平均を上回っており、学習への意欲の高さが明らかになつた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

平均正答率は、全国平均・大阪市平均より10ポイント以上下回る結果となった。特に、「読む」内容について課題があった。物語を読んで登場人物の行動や会話、様子を結び付け、それらを基に物語の全体像を想像したり、登場人物の心情の変化を読むことが難しかつたと考えられる。文章に書かれた言葉の意味を理解する語彙力や読み内容を理解する読解力を高めていく必要がある。

「読む」内容以外の項目については、昨年と比較して全国平均に近づいた。決められた条件に合わせて文書を考える「情報の扱い方」において、自分の考えたことを指定の文字数にまとめることができていた。自分の考えをまとめる学習を継続してきた成果だといえる。

また、無回答率は全国や大阪市より低くい結果となった。問題に向き合い、自分の考えを持ち、誤答であったとしても自分の考えを示そうとする前向きな姿勢を持つことができているのは、日頃の学習における積み重ねの成果だと考えられる。

[算数]

平均正答率は、全国平均・大阪市平均より10ポイント以上下回る結果となった。特に、「データの活用」「図形」の領域において課題があった。データの活用問題では、表やグラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまるなどを記述することに課題があった。データを読み取ることができるようにしていくため、自分の考えを少人数で伝え合う活動を行い確認をしていく活動を取り入れていきたい。また、図形の問題では、見取り図や展開図にかかれている編の長さや面と面や辺と辺の位置関係について理解する力をつけていく必要がある。

「変化と関係」の領域は、全国平均・大阪市平均に近づいている。速さや飲み物の量といった日常の場面の問題のため、イメージを持つことができたと考えられる。今後は、さらに日常生活の問題場面に照らし合わせて、割合や妥当性について考えられるよう指導を工夫していくみたい。

質問調査より

国語・算数、それぞれの教科に対して「勉強は好きですか」の質問において、肯定的に回答する児童の割合は、全国平均と比較して高い割合だった。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問項目においても、全国平均を超える結果だった。一方、国語の授業において「違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか」や「目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか」の質問に対しては、大きく下回る結果だった。これらのことから、普段の学習において児童が分かる、楽しいと実感できる授業展開に

より国語や算数に対する意欲は高まっているものの、文章に書かれている内容を比較したり整理したりすることや、表やグラフ、図などから必要な情報を取り出し考えを持つ複合的な問題を解く力はまだ身についていないと考えられる。今後はスマールステップでできる課題の難易度を上げていき、児童ができそうだという見通しを持ちながら力をつけていけるような指導の工夫をしていきたい。

また、「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答する児童の割合は80%で全国より高い結果となった。この結果は、本校が大切にしている人権教育の成果であり、実践を深めることができている成果だといえる。しかしながら、この結果に留まることなく、すべての児童が「いじめは絶対にいけない」と言い切ることができることをめざしていきたいと考えている。そのため、今後も一人ひとりを大切にしようとする思いを育む人権教育を推進していきたい。

今後の取組(アクションプラン)

児童一人ひとりの学力を的確に捉え、個の実態に応じて学習環境を整えたり、必要な支援を行ったりして、児童にとって『主体的・対話的で深い学び』となるよう、取組を進めていく。教育効果を上げるために、教科学習での充実を図るとともに、学習の基盤となる豊かな人権感覚も養うことができるよう学びの場や仲間と協力して課題解決をしていく場を設定していきたい。そして、様々な教育活動を通して自己肯定感を高め、様々な角度から達成感や満足感を味わわせることにより児童の学力向上へつなげていきたい。

- ・自己肯定感の醸成を進めていくため、「学校規模ポジティブ行動支援」に取り組む。
- ・学習者用端末の学習システムを活用して基礎的・基本的な学習の定着を図る。
- ・読書活動の推進や読書環境の整備を通して、児童の読書に対する興味や意欲を高める。
- ・主体的・対話的な学びを実現する授業実践と、そのための授業研究を深めていく。
- ・学びコラボレーターとの連携・協力やサポーターの配置により学習支援の充実を図る。
- ・エビデンス（各種アンケート・算数チャレンジ・多層指導モデル）を活用する。
- ・児童の実態に応じたきめ細やかな支援を行うため、個に応じた学習環境を整える。
- ・地域と連携して人権総合学習を推進し、学習基盤となる豊かな人権感覚の育成につなげる。

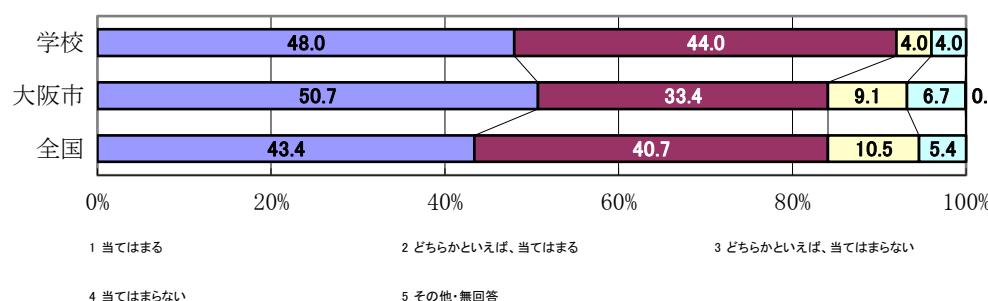
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

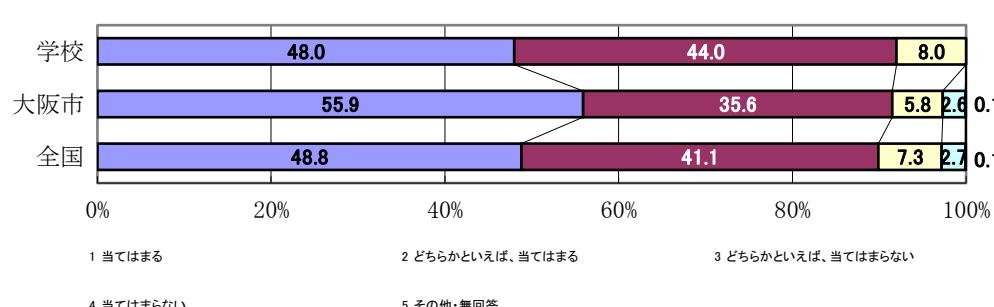
9

自分には、よいところがあると思いませんか



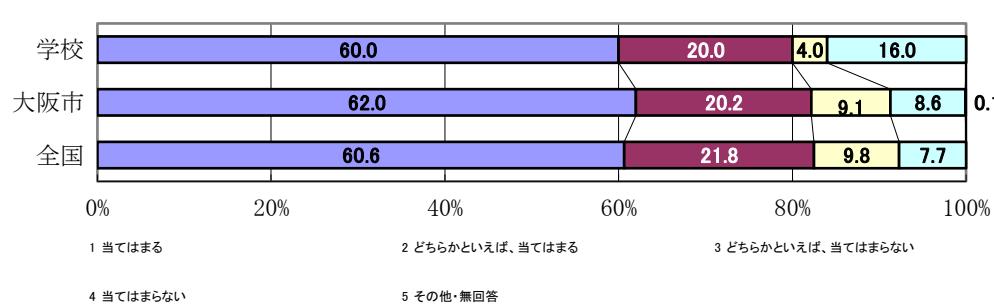
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



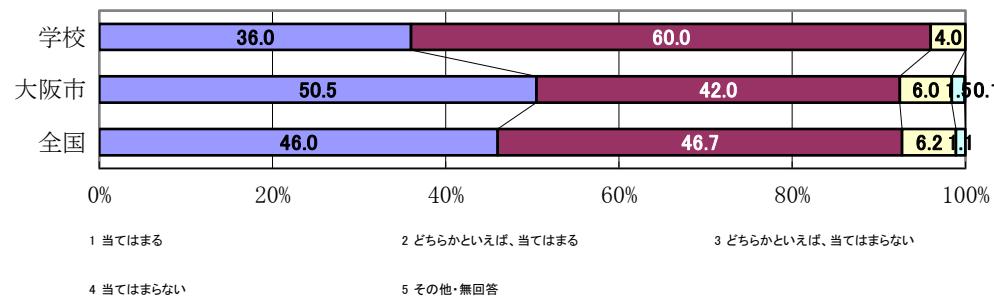
11

将来の夢や目標を持っていますか



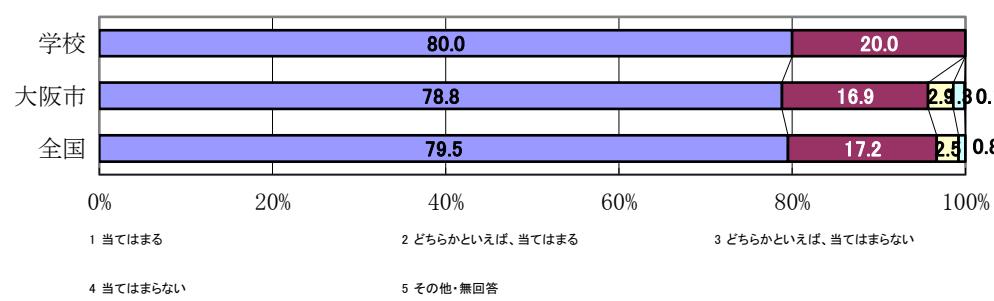
12

人が困っているときは、進んで助けていますか



13

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



学校質問より

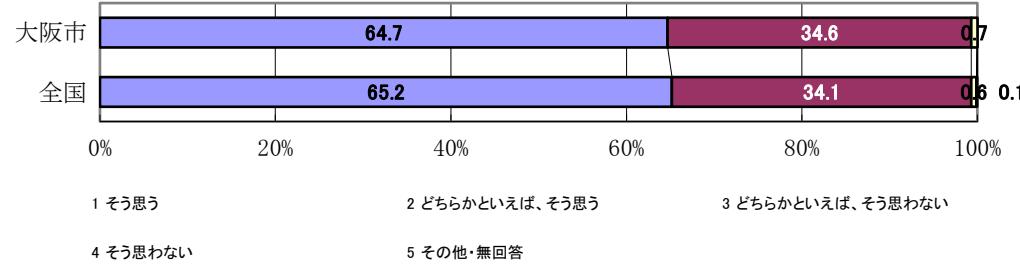
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

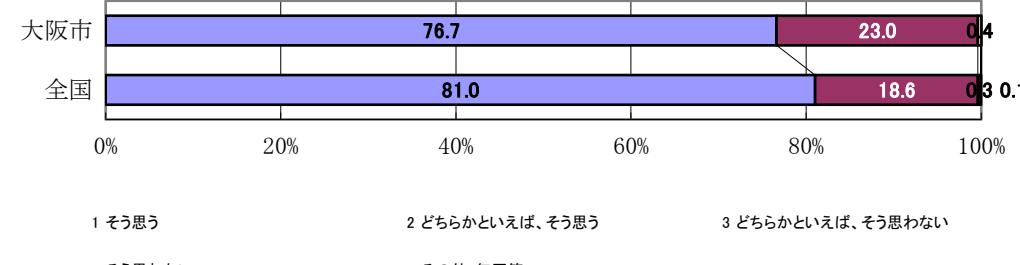
学校 「そう思う」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

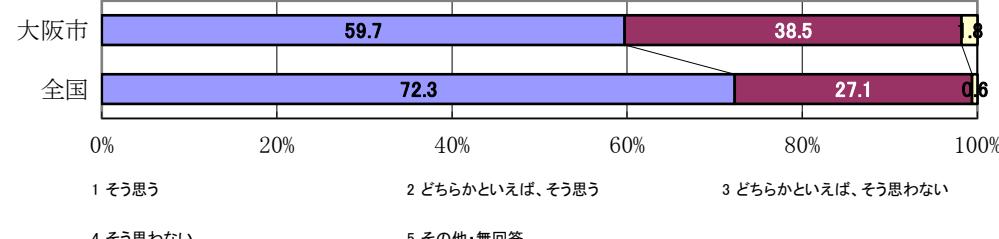
学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

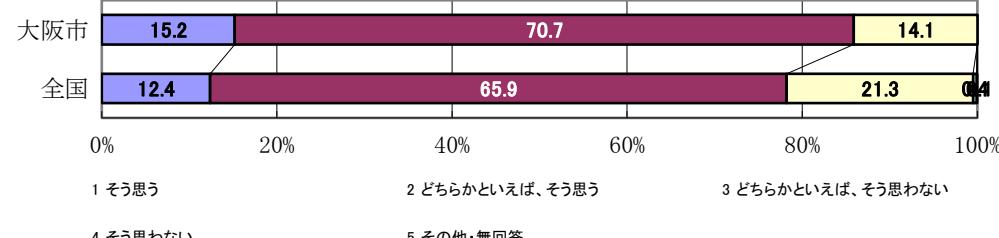
学校 「そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

学校 「そう思う」を選択

